



環境活動レポート

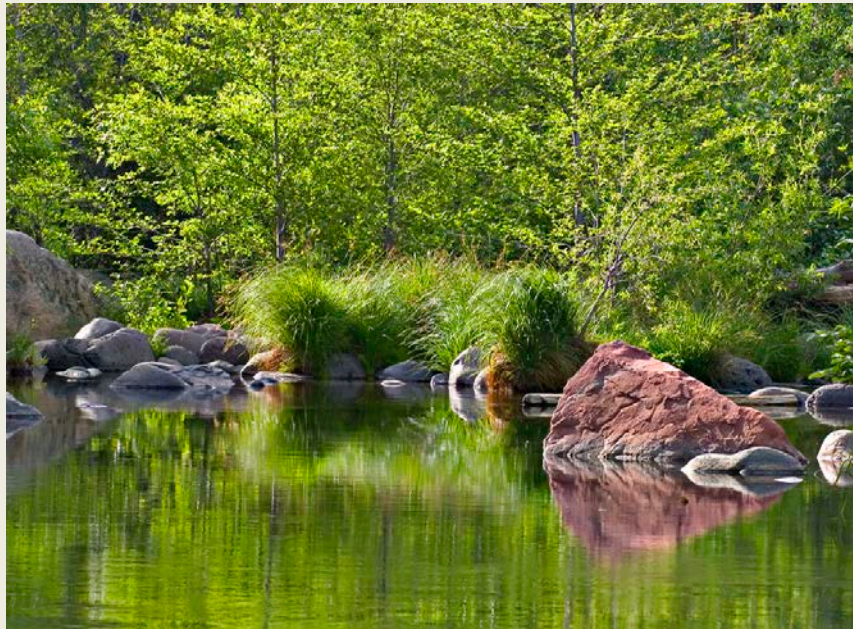
株式会社日出

【対象範囲】

【プラスチックレンズの製造・販売 金型の設計・製造・販売】

【実施期間：2018年2月～2019年1月】

【発行】 2019年2月10日



1. 株式会社 日出 本社・工場の事業概要

(1) 事業者名及び代表者名

株式会社 日出 (本社・工場)

代表取締役社長 稲川 善也

(2) 所在地

〒179-0081 東京都練馬区北町5-17-5

(3) 環境管理責任者

事業統括センター 所長 : 井達 敏夫

(4) 担当者連絡先

連絡担当者: 管理統括センター 所長: 藤井 真吾

TEL : 03-3937-1341 FAX : 03-3933-3730

E-mail : fujii@hinode-japan.co.jp

(5) 事業概要 (2018年2月10日現在)

① 主な事業: プラスチックレンズの製造・販売・金型の設計・製造・販売

② 資本金: 7400万円

③ 従業員数: 20人 (茨城工場含む)

④ 床面積: 3,158㎡ (茨城工場含む)

⑤ 売上高 (本社・工場・茨城工場)

年度別	2015年度	2016年度	2017年度
売上高(百万円)	232	195	177

2. 茨城工場概要

(1) 所在地 〒309-1224 茨城県桜川市中泉星の宮381-4

床面積: 2,402㎡ (従業員数: 12人)

(2) 主な事業

プラスチックレンズ製品の製造

3. 認証・登録範囲は全社・全事業

2. 環境方針

—株式会社 日出 環境方針—

《企業環境理念》

世界の繁栄と人類の幸福の観点から、感謝と共生の理念を大切に持ち、地球環境との調和に貢献できるように、活動を続けて参ります。

〈環境方針〉

- ◆ 株式会社日出は、プラスチックレンズ部品・金型の生産会社として、生産活動と環境保全活動を調和させることに、最大限の配慮を払う。

- ◆ 生産活動においては、環境経営システムを有効に機能させ、環境目標を設定し、その達成に向けて行動する。

〈環境目的〉

- 1 遵法性の維持

- 2 廃棄物削減と再資源化の促進

- 3 化学物質管理(禁止物質不使用)

- 4 省エネルギーの推進

- 5 グリーン購入の推進

2013年2月1日

株 式 会 社 日 出

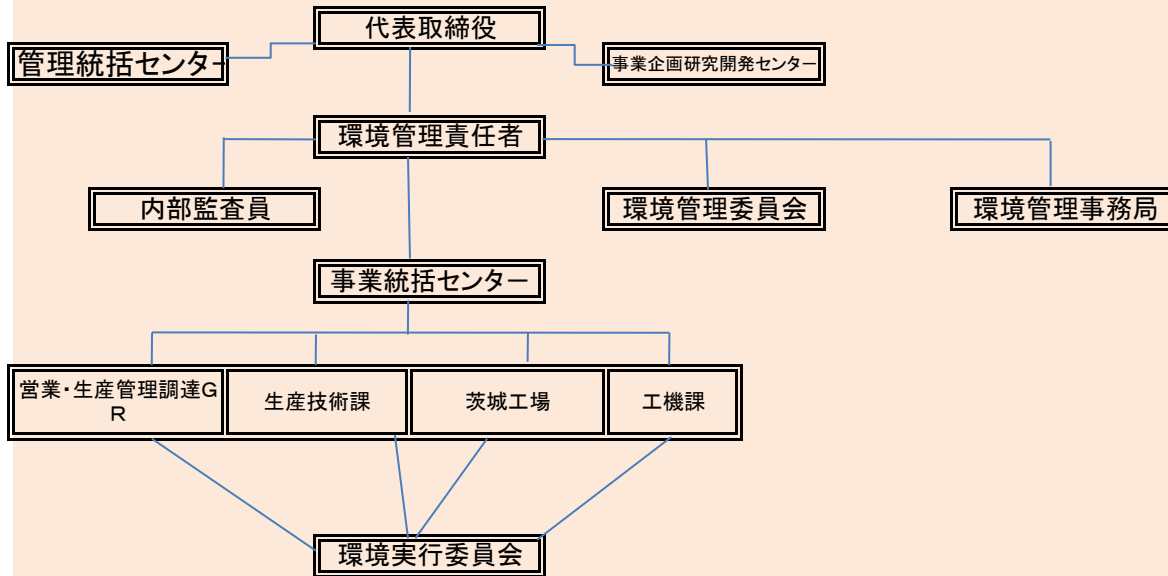
代表取締役社長 稲川 善也



稲川善

3. 環境経営システム組織体制

(株)日出 環境管理組織図



4. 環境負荷実績

項目	2016年度	2017年度	2018年度
CO2排出量 (kg-CO2)	431,908	358,198	368,644
水使用量 (m ³)	378	182	169.5
廃棄物等排出量 (t)	2.39	1.50	1.50
総物資投入量 (t)	9.59	5.60	9.94



HE-0401
2018年2月10日

(株)日出 本社・工場・茨城工場 2017年～2019年 環境目標

作成者 井達

承認者 稲川

5. 環境目標

大項目	項目名	2017年	2018年	2019年
廃棄物削減	廃金属削減	2016年度排出実績(622kg)に対し削減	2017年度排出実績に対し削減	2018年度排出実績に対し削減
	廃プラ削減	2016年度排出実績(8899kg)に対し削減	2017年度排出実績に対し削減	2018年度排出実績に対し削減
	廃プラ削減(茨城工場)	2016年度排出実績(8899kg)に対し削減	2017年度排出実績に対し削減	2018年度排出実績に対し削減
	事業系一般廃棄物削減	2016年度排出実績(989kg)に対し削減	2017年度排出実績に対し削減	2018年度排出実績に対し削減
	事業系一般廃棄物削減(茨城工場)	2016年度排出実績(1402kg)に対し削減	2017年度排出実績に対し削減	2018年度排出実績に対し削減
CO2削減	電力使用量削減	2016年度実績(286925kwh)に対し削減	2017年度実績に対し削減	2018年度実績に対し削減
	電力使用量削減(茨城工場)	2016年度実績(533061kwh)に対し削減	2017年度実績に対し削減	2018年度実績に対し削減
	ガソリン使用量削減(茨城工場)	2016年度実績(0ℓ)に対し削減	2017年度実績に対し削減	2018年度実績に対し削減
節水	水使用量削減	2016年度実績(351ℓ)に対し削減	2016年度実績に対し削減	2016年度実績に対し削減
	水使用量削減(茨城工場)	2016年度実績(27ℓ)に対し削減	2017年度実績に対し削減	2018年度実績に対し削減
化学物質管理	部材の環境影響調査	全部材の環境影響調査	全部材の環境影響調査	全部材の環境影響調査
	PRTR対策	2016年度排出量(22.1ℓ)に対し削減	2017年度排出量に対し削減	2018年度排出量に対し削減
	グリーン調達対応	顧客要求事項遵守	顧客要求事項遵守	顧客要求事項遵守
教育・訓練の実施	自覚教育の実施	環境関連知識教育	環境関連知識教育	環境関連知識教育
	力量保持教育の実施	必要資格の取得	必要資格の取得	必要資格の取得

※ 化学物質管理の「部材の環境影響調査」「グリーン調達対応」は都度実施するため、実行計画(HE-0402)は作成
 ※ 「教育・訓練の実施」に関しては、「年間教育計画」を作成し、実行計画(HE-0402)は作成しない。

6. 主要な環境活動計画の内容

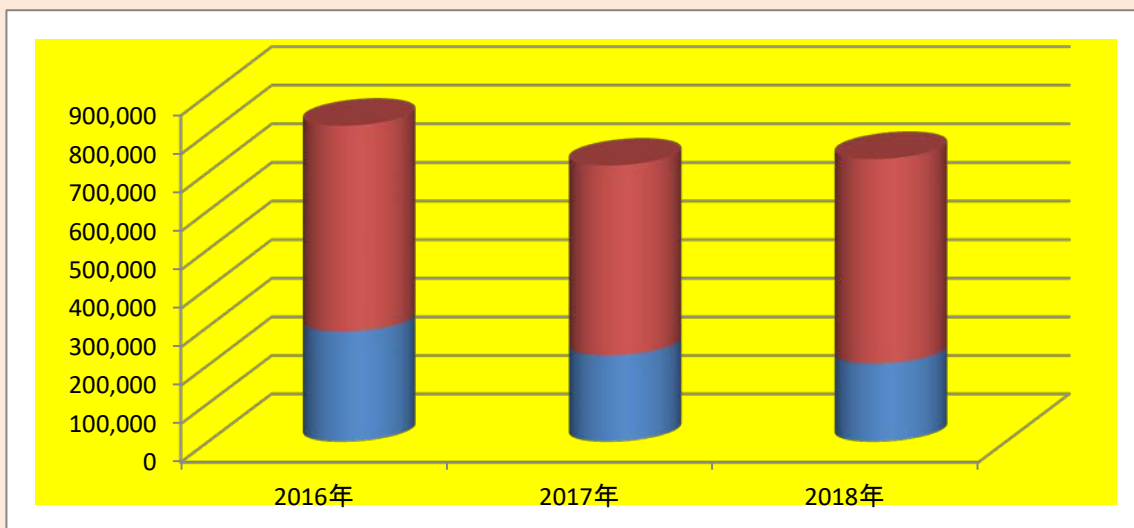
(株)日出 2018年度 環境活動計画の主な実施項目

項目名	主 な 施 策
廃棄物の削減 リサイクルの促進	<ul style="list-style-type: none"> ① 金型の加工不良(工数)低減による廃金属の削減 ② 顧客納期を最優先し、生産変更への速やかな対応 ③ OA紙リサイクルによる事業系一般廃棄物の削減(3R)
電力使用量の削減 省エネの推進	<ul style="list-style-type: none"> ① 空調温度遵守の徹底(夏28℃、冬20℃) ② 節電の徹底(不使用機器の電源OFF) ③ 省電力機器への切り替え(設備変更時)
ガソリン使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ① エコドライブの実践・公共交通機関の利用) ② 計画的な金型移動
水使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ① 節水の徹底(最終排水口、定期点検の実施) ② 漏水点検の実施
化学物質管理	<ul style="list-style-type: none"> ① グリーン購入(リサイクル品の活用・情報の入手) ② PRTR対象化学物質の排出量削減(トルエン) ③ 顧客グリーン調達への対応 禁止物質不使用・(RoHS/REACH/PFOS)
教育・訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> ① 環境教育の実施(実行委員会の定期的開催) ② 専門教育の実施(OJT・OFFJT) ③ 力量教育の育成(技能・知識・資格)等

7. 《環境活動の取組結果の実績》

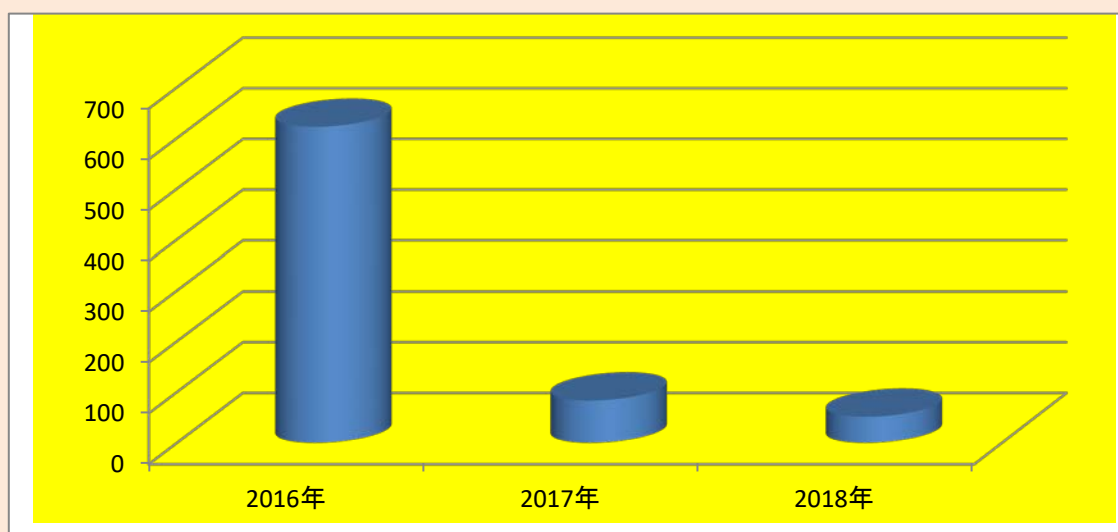
【実施期間 2017年2月～2018年1月】

【No 1】	実績	電力 (kWh)	2016年	2017年	2018年	(本社・工場) (茨城工場)
			286,925	225,009	204,039	
			533,061	491,765	529,709	



結果	目標値に対して -9.32 % (本社・工場)
	目標値に対して +7.72 % (茨城工場)
本社・工場	年々着々と削減されており、取り組み結果が数値として表れてきている。今後も継続的に取り組みたい。
茨城工場	今年度は稼働が増加となった為にその分増加となってしまった。来期は継続して削減に努めたい。

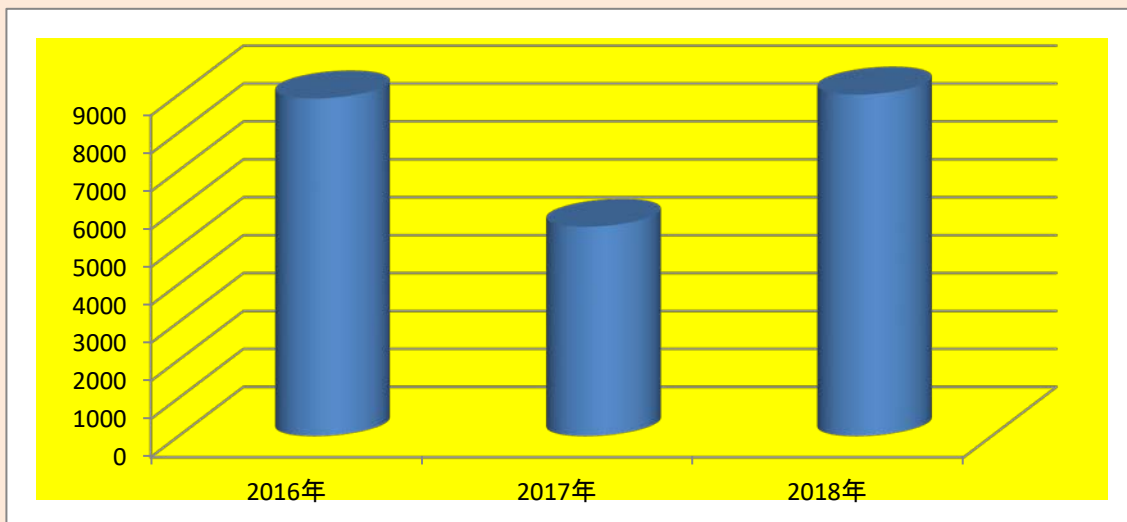
【No 2】	実績	廃金属 (kg)	2016年	2017年	2018年
			622	83	51



結果	目標値に対して -38.6 %
----	-----------------

前々年の引っ越しの為排出量が増えたのに対して通常は削減できている。削減量は金型事業の衰退が影響している。引き続き削減に努めたい。

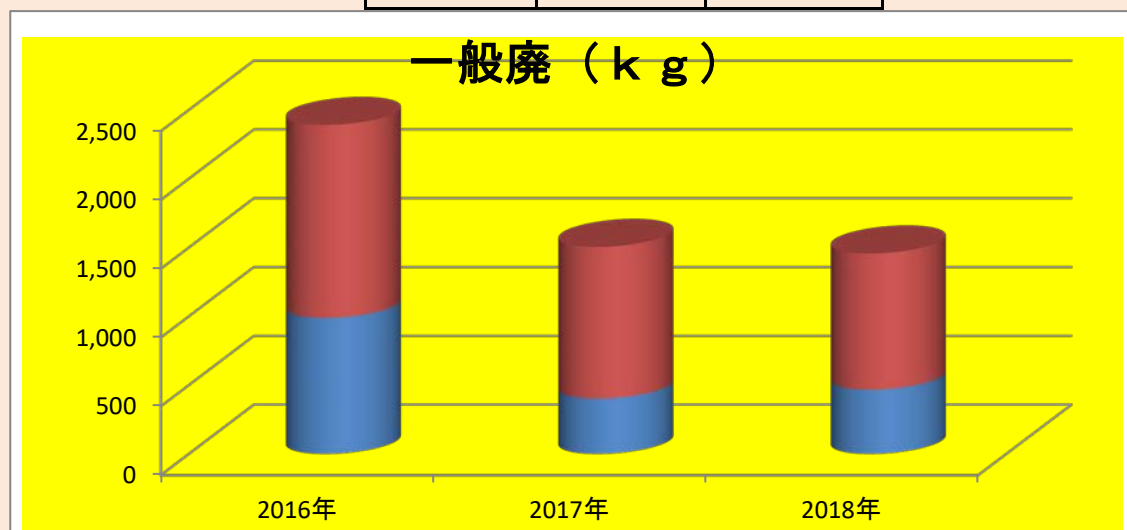
【No 3】実績	廃プラ (kg)	2016年	2017年	2018年
		8899	5515	9987



結果 目標値に対して + 81.01 %

稼働増加に伴い材料比率も増加し廃プラ削減も出来なかった。良品化率は大きな課題となる。廃棄品は全量リサイクルに廻しているが、良品率をあげれば電気使用量削減などにも繋がるので来期は削減に努めたい。

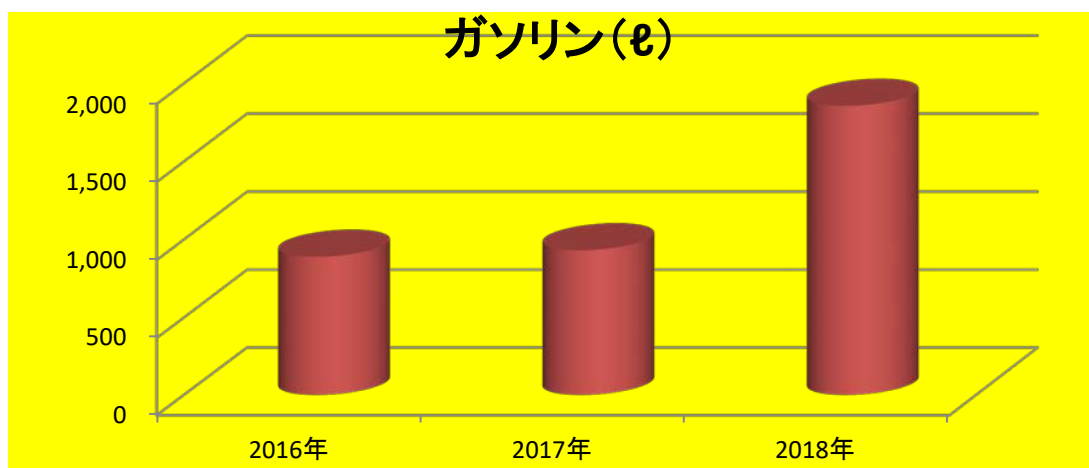
【No 4】実績	一般廃 (kg)	2016年	2017年	2018年	(本社・工場)
		989	403	467	
		1402	1102	990	



結果 目標値に対して + 15.80%(本社・工場)
目標値に対して - 10.16%(茨城工場)

前々年は引越しの為排出量が多くなってしまった。廃棄物を確認しているがイレギュラーがほとんどであった。前年の様に通常は今年度の様に削減できているので引き続き削減に努めたい。尚、本社・工場については事業部門の移転に伴い増加があるが、引き続き削減に努め本社・工場の2018年度目標は上記原因より2015年度実績値に対して削減とする。

【No 5】	実績	ガソリン (ℓ)	2016年	2017年	2018年	(本社・工場) (茨城工場)
			0(車全廃)	0	0	
			889	931	1,856	



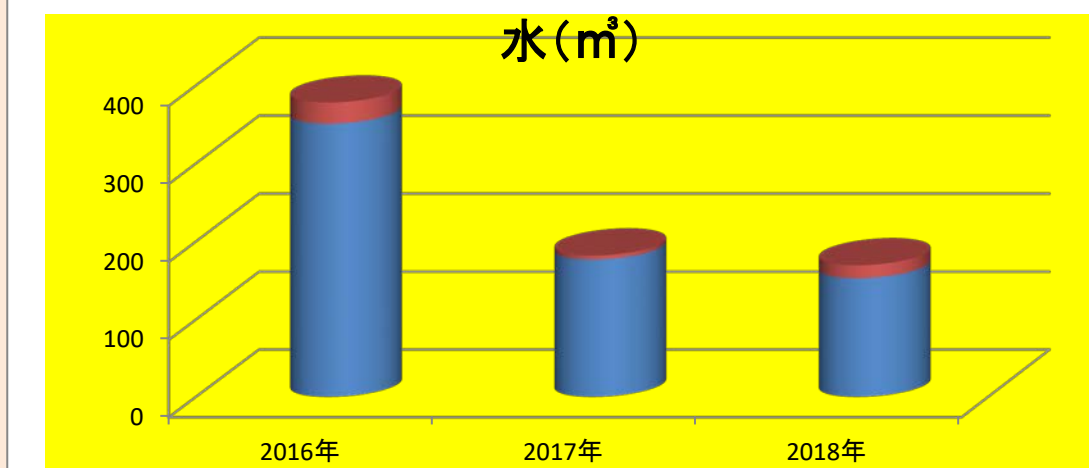
結果 目標値に対して 車全廃(本社・工場)
目標値に対して +199.36%(茨城工場)

本社・工場

公共機関の積極的利用により車全廃。前年より目標から削除。イレギュラー時は茨城工場へ加算
茨城工場

金型OH、新規金型移動の為の輸送をできるだけまとめて行ってはいるが外部からの移管金型
に問題が多く、削減するどころか倍増している。問題解決をして今後も継続して削減に努める。

【No 6】	実績	水 (m ³)	2016年	2017年	2018年	(本社・工場) (茨城工場)
			351	177	153	
			27	5	16.5	



結果 目標値に対して -13.56%(本社・工場)
目標値に対して +330.0%(茨城工場)

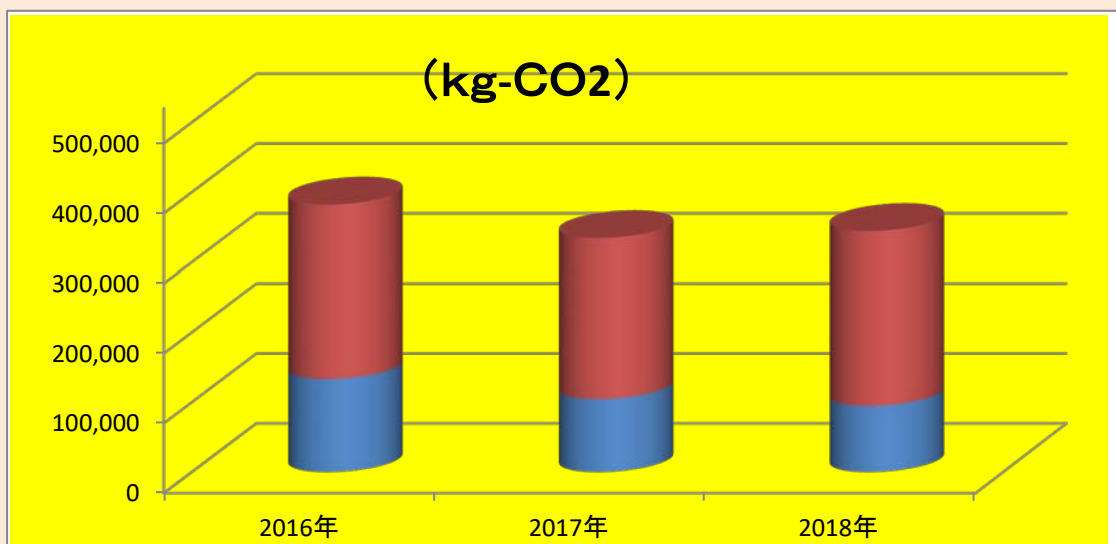
前々年、水道メーターの漏水点検により、漏水のがある事を確認し、原因特定、改善済。
異常気象のなか、引き続き水削減に努めたい。

本社・工場の2018年度目標は上記原因より2016年度実績値に対して削減とする。

茨城工場の増加については原因が特定出来ていない。引き続き調査を続行する。

【No 7】

実績	CO2 (kg-CO2)	2016年	2017年	2018年	(本社・工場) (茨城工場)
		133,469	104,667	94,826	
		248,904	229,848	249,605	
CO2排出係数		0.463	0.463	0.463	



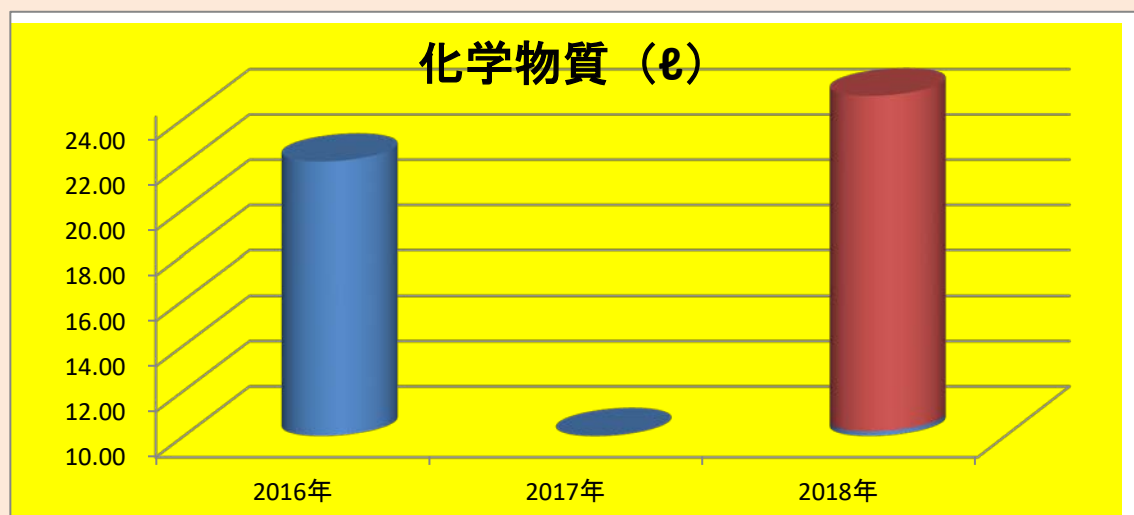
結果	目標値に対して	- 9.41 % (本社・工場)
	目標値に対して	+ 8.59 % (茨城工場)

本社・工場
今後も継続して削減に努める。

茨城工場
仕事量の増加に従って増加しているが、今後も無駄を省き継続的に削減に努めたい。

【No 8】

実績	化学物質 (ℓ)	2016年	2017年	2018年	(本社・工場) (茨城工場)
		22.10	9.18	10.20	
				21.08	

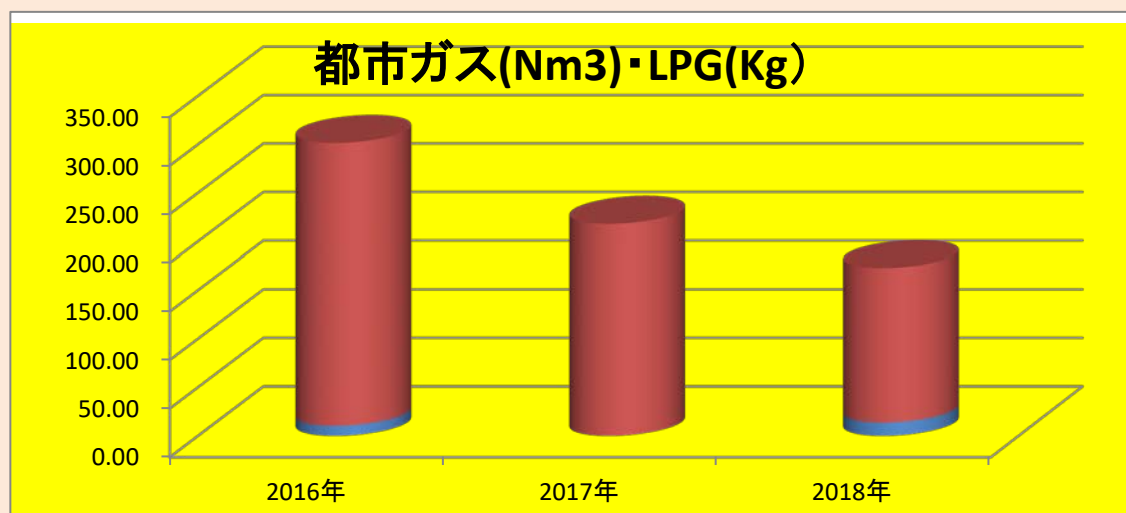


結果	目標値に対して	+ 11.11 % (本社・工場)
	目標値に対して	0 % (茨城工場)

上記データはPRTR対象化学物質です。次年度以降も削減に努めたい。
 本社・工場については微増となっている。メンテナンス回数の増加が主体だが、引き続き削減に努めたい。
 茨城工場の実態把握をした。次年度以降も削減に努めたい。

【No 9】

実績	都市ガス・LPG	2016年	2017年	2018年	(本社・工場) (茨城工場)
	都市ガス(Nm3)	291.00	218.00	159.00	
	LPG(kg)	10.40	0.00	13.70	



結果

目標値に対して - 27.06 % (本社・工場)
 目標値に対して +13.70 % (茨城工場)

上記データは都市ガス・LPGです。次年度以降も削減に努めたい。
 本社・工場については大幅に削減となっている。メンテナンス回数の増減によって変わるが、引き続き削減に努めたい。

茨城工場は前年の数値がないので、前年平均値を10として算出した。次年度以降も削減に努め

《環境活動の取組結果の実績と評価》

No	実施項目	実績値	評価(○/×)%
1	電 力(kWh)	204,039	○ -9.32%(本社)
		529,709	× +7.72%(茨城)
2	廃金属(kg)	51	○ -38.6%
3	廃プラ(kg)	9987	× +81.01%
4	事業系一般廃(kg)	467	× +15.8%(本社)
		990	○ -10.16%(茨城)
5	ガソリン(ℓ)	0	○ 車全廃(本社)
		931	× +4.72%(茨城)
6	水(m ³)	153	○ -13.56%(本社)
		16.5	× +330%(茨城)
7	CO2(kg-CO2)	94,826	○ -9.41%(本社)
		249,605	× +8.59%(茨城)
8	化学物質(ℓ)(PRTR)	10.20	× +11.11%(本社)
		21.08	○ 0.00%(茨城)
9	都市ガス(Nm3)	159.00	○ -27.06%(本社)
		LPG(Kg)	13.70

未達成項目		差異
NO. 1	電力	+7.72%
NO. 3	廃プラ	+81.01%
NO. 4	事業系一般廃棄物	+15.8%

実施内容と分析 是正	NO. 5	ガソリン	+4.72%
	NO. 6	水	+330.0%
	NO. 7	CO2	+8.59%
	NO. 8	化学物質 PRTR	+11.11%
	NO. 9	LPG	+13.7%

8. 【是正処置】

NO 1 電力（茨城工場）

今年度は稼働が増加となった為にその分増加となってしまった。来期は継続して削減に努めたい。

NO 3 廃プラ 全体

稼働増加に伴い材料比率も増加し廃プラ削減も出来なかった。良品化率は大きな課題となる。廃棄品は全量リサイクルに廻しているが、良品率をあげれば電気使用量削減などにも繋がるので来期は削減に努めたい。

NO 4 事業系一般廃棄物（本社・工場）

前々年は引越しの為排出量が多くなってしまった。廃棄物を確認しているがイレギュラーがほとんどであった。前年の様に通常は今年度の様に削減できているので引き続き削減に努めたい。

尚、本社・工場については事業部門の移転に伴い増加があるが、引き続き削減に努め

NO 5 ガソリン

金型OH、新規金型移動の為の輸送をできるだけまとめて行ってはいるが外部からの移管金型に問題が多く、削減するどころか倍増している。問題解決をして今後も継続して削減に努める。

来期は全体組織上、茨城工場に集約出来ることは実施しメンテナンスに伴う移動の低減に努めたい。

NO 6 水（茨城工場）

茨城工場の増加については原因が特定出来ていない。引き続き調査を続行する。

NO 7 CO2（茨城工場）

仕事量の増加に従って増加しているが、今後も無駄を省き継続的に削減に努めたい。

NO 8 化学物質 PRTR（本社・工場）

本社・工場については微増となっている。メンテナンス回数の増加が主体だが、引き続き削減に努めたい。

NO 9 LPGガス（茨城工場）

茨城工場での使用量の前年数値報告がないので、平均値での評価となっているが、引き続き削減に努めたい。

総評

前々期で引越しによる数値の増加があった為、全体的には削減率は年々増加していることは評価したい；今期は特に部門集約や経年劣化、倒壊危険のある構造物の撤去など廃棄物が増加することが主体要因となった。出来る限り数値は増加させたくないが、災害の多い日本に於いて危険の除去は事前対策として必要不可欠と考える。また、茨城工場への集約化に伴って、茨城工場の数値化を新たにした項目の増加もあり、今後、如何に削減していくかが重要な課題である。

環境活動が年々向上することを期待いたします。

環境管理責任者：井達敏夫

9. 環境関連法規への違反、訴訟の有無

(1) 環境関連法規への違反

環境関連法規への違反はない。

《適用法規》

- 下水道法及び練馬区下水道条例
- 下水道法及び桜川市下水道条例
- 廃棄物処理法、練馬区廃棄物の処理及び再利用の促進に関する条例
- 消防法及び練馬区消防条例
- 騒音規制法
- 振動規制法
- 家電リサイクル法
- フロン排出抑制法
- 自動車NOX・PM法
- 東京都環境確保条例
- 顧客のグリーン調達基準
- PRTR法
- 労働安全衛生法

- 顧客のグリーン調達基準

(2) 訴訟等の有無

創業から現在まで、訴訟や近隣からの苦情はない。

なお、関係当局よりの違反の指摘は過去3年間ない。

10. 2018年度法規制遵守評価表(2019年2月3日現在)

NO	法規制等の名称	評価	項目	確認事項
1	下水道法及び練馬区 下水道条例	○	・油類等の大量流出	・油類等の排水はなかった。
	桜川市下水道条例	○	・長方地区は各自工場敷地内処	・浸透型浄化槽
2	廃棄物の処理及び清掃に 関する法律 (廃棄物処理法)	○	・(金属くず・廃油)マニフェスト発	・マニフェストは期間内に戻ってきている ・管理票交付等状況報告書を提出
	練馬区廃棄物の処理 及び再利用の促進に関する 条例	○	・委託契約・許可証の期限	・委託契約は行っている ・許可証の有効期限内を確認
		○	・保管場所(掲示板設置)	・法律に沿った保管及び運用が できている
3	消防法及び練馬区消防条例	○	・届出 ・保管量 (少量危険物貯蔵取扱所)	・届出済 ・届出数量以内を確認
4	騒音規制法	○	・特定施設 (射出成形機・空気圧縮機)	・通常通りで異常な騒音はない (敷地境界線上で確認)
		○	・届出	・届出済
5	振動規制法	○	・特定施設 (射出成形機・空気圧縮機)	・通常通りで異常な振動はない (敷地境界線上で確認)
		○	・届出	・届出済
6	家電リサイクル法	○	・家電4品の廃棄時の処置	・実施できている。(廃棄時に写し保管)
7	フロン排出抑制法	○	・業務エアコンの廃棄時の処理 ・機器の設置、定期点検、漏洩防止	・実施できている。(廃棄時に写し保管) ・定期点検履歴保存
8	自動車NOX・PM法	○	・自動車購入時の処置	・該当する車両なし。
9	都民の健康と安全を確保する 環境に関する条例 (東京都環境確保条例)	○	・アイドリングストップ	・実施できている。
		○	・PM規制	・該当する車両なし
	桜川市環境基本条例	○	・水質汚濁、大気汚染	・特定施設なし
10	グリーン調達基準	○	・禁止物質等不使用 欧州 (RoSH/REACH)	・規定濃度以下の材料使用 (環境影響禁止物質は不使用)
11	PRTR法	○	一定使用量以上報告義務	・少量
12	労働安全衛生法	○	・リスクアセスメント	・化学物質リスク簡易評価

11. 代表者による全体評価と見直しの結果

1. 環境方針

環境方針は、各職場に掲示し全従業員に周知している。

2. 環境目標及び計画

(1) 計画に対して達成状況

環境目標の計画に対しては一部で増加があったもののほぼ達成できた事は評価する。

環境活動の今までの取り組みで削減量も小さくなってきたが、引き続き改善を期待している。

生産状況により電気、ガソリン、化学物質使用量も変化するが実績として削減できるよう取り組んでもらいたい。

(2) 今後の課題

エコアクション21の環境活動も定着しつつあり、従業員の意識も高揚していると判断する。

他の部署の設備を使用し分担して行うような連携を密にし削減に取り組んでもらいたい。

生産体系に対応し上記のように各職場の連携を密にする事を期待する。

3. 社会・取引先・法律等への対応

- ・ 市場に於いての化学物質に関しては、益々厳しくなっているが遵守【REACH規則, 各国法規制等】。
- ・ 環境関連法規の遵守、グリーン調達(顧客要求事項)に対応する。

4. システムその他

- ・ 必要があれば、人員配置や設備導入を考えたい。
- ・ 新規導入設備は、省エネタイプとする。

以上